

令和 4 年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2791600436		
法人名	ベターブレイス株式会社		
事業所名	グループホームめいの家		
サービス種類	認知症対応型共同生活介護		
所在地	大阪府吹田市五月が丘北6-12		
自己評価作成日	2023年2月28日	評価結果市町村受理日	2023年4月14日

【事業所基本情報】(介護サービスの情報公表制度の基本情報リンク先URLを記入)

https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/27/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2791600436-00&ServiceCd=320

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 介護保険市民オンブズマン機構大阪		
所在地	大阪府大阪市北区天神橋3丁目9-27(PLP会館3階)		
訪問調査日	2023年3月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

諦めることが日常になったこの3年間だったが、今年は絶望を力にかえる年にしたい。安全に過ごすために闘って今があると思うので、今年は「あきらめない1年」にする。102歳、100歳と高齢の方もおられるので十分に配慮しつつ、めいの家の日常を取り戻す。昨年7~8月、11月と2度コロナクラスター発生し、3階利用者も職員もほぼ全員が感染した。2度のクラスターで、感染拡大時の対応は完璧!になった。ありがたいことに重症化した人はいなかったし、早くに全員復活できた。職員が知恵をしばり、力を合わせた結果だ。これこそめいの家の強みなのだと思う。慌てず強い気持ちで「いつもどおり」を貫いた。そして今年、私達は出来る限りの力で楽しもうと決めた。日常を取り戻すために。行事を復活させて旅にも出る。めいの家らしい2023年を過ごしたい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

▶「Be smile Be happy(笑顔で幸せに!)という理念の元、利用者と職員の会話が飛び交う活気に満ちたホームです。▶閑静な住宅地にあつて、1階にデイサービスを併設する白い建物は12月の1カ月間、美しいクリスマスイルミネーションが点灯し地域の風物詩に。また、建物の前の駐車場広場では地域の自治会と連携して春祭りや夏祭り、クリスマスにはビンゴ大会等が開催され、住民や子どもたちが集まる地域の拠点になっています(地域連携イベントはコロナ禍の時期には休止)。▶代表は「めいの家(おうち)の名前の通り、ここはお家。一人ひとりの人生に触れ、今を共に過ごし、一緒に楽しんで泣いて喧嘩して」と話します。▶ホームでは「高齢者だから、認知症だから」という固定観念にとらわれず何でも挑戦しています。その結果、利用者の残存能力はもちろん潜在能力が引き出され、見違えるほど元気になる利用者が少なくありません。例えばいそいと家事を手伝う利用者や、運動会で組体操に参加する102歳の利用者も。大晦日にはアイドルグループ嵐の「カイト」を全員で合唱しました。「こんな笑顔見たことがない」「こんな一面があるなんて知らなかった」と驚く家族もあります。▶食事は3食ともホームで手作りしています。近所の青果店から届く食材を使って職員が作る家庭料理は美味しく、飽きないと好評です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「Be smile Be happy(笑顔で幸せに!)」を理念としています。「ここに来てよかった」「あなたに会えてよかった」「生きていてよかった」いろんな「よかった」を応援し、地域の自治会、子供たちの協力を得て、夢叶う明日に向けて取り組んでいます。	「Be smile Be happy(笑顔で幸せに!)」を理念に掲げ、各ユニット事務所に掲示しています。管理者と職員は文言を熟知し、利用者へのサービス提供だけでなく自身の行動指針にしています。	ホームの考えや魅力を端的に語る理念。事務所だけでなくユニットの共有空間や入所案内にも掲示、掲載してはいかかでしょうか。利用者や家族、地域住民、ホームと関わる大勢の人たちに周知することで理解が深まり共感が広がります。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナウイルスの影響で、まだまだ地域の方と一緒に何かをすることは出来ませんが、めいの家の利用者・職員だけで小さく行事をする際に出しているお手紙に返事を頂いたり、コテツの散歩の時に「またコロナが収束したら参加したい」や「イルミネーション見に行きました」などお話することがあります。使わなくなったタオルを持ってきて「コロナは大丈夫？」と心配してくれる方もおられめいの家のことを考えてくれる地域の皆さんのやさしさを知ることができました。	ホームの白い建物は、12月の1カ月間、美しいクリスマスイルミネーションが点灯し、地域の風物詩になっています。地域住民からぬいぐるみや古いタオル、食品等の寄付があり、ホームのアイドル犬「コテツ」を連れて散歩の際には声を掛けてもらうなど、地域の一員として日常的な交流が続いています。また、コロナ禍で中断していますが、日中、近所の子どもがホームに遊びに来たり、地域の自治会と連携して行う春祭り・夏祭りや、クリスマスイベント、年末の餅つき大会には、住民や子どもたちが大勢参加し、地域の中で頼られる存在になっています。様々な行動制限が解除される2023年度は各種行事が復活する予定です。代表や管理者、職員は意欲を燃やしています。	

3		<p>○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>今年もクリスマスイルミネーションを約1ヶ月点灯しました。点灯に時間を合わせて散歩に来てくれた親子や毎日見に来てくれるおばあちゃんなど、たくさんの方が来てくれました。いつかまた、子供たち・利用者・家族みんなでカウントダウンしながら点灯式をしたいなと思いました。</p>		
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>新型コロナウイルスの為に中止しています。</p>	<p>運営推進会議は2カ月に1回、家族会役員、地域住民代表、地域包括支援センター職員、グループホーム提携医、訪問看護師、ホーム管理者と職員等が参加し開催していましたが、コロナ禍で中止しています。関係者には中止の知らせと合わせて、ホームの状況や日々の暮らしぶりが分かる「メイズタイムス」を送付しています。コロナ規制が緩和される2023年度は再開の予定です。</p>	<p>外部の関係者を交えて意見交換する運営推進会議は、開かれた、よりよいホーム運営のために不可欠な会議です。リアル会議が難しい状況でも書面やオンラインでの開催を検討してはいいでしょうか。また、再開時には「防災」や、外部評価を通じてホームで作成された「目標達成計画」についても話し合われることを期待します。</p>
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる</p>	<p>グループホーム部会に(リモートの時もありますが)参加しています。</p>	<p>市の高齢福祉室や生活福祉室とは都度、連絡をとり合い、市主催の「グループホーム部会」に参加しています。部会と連携しホームの提言で2014年に始まった「わたしにできることプロジェクト」は、市民にグループホームの魅力を伝え、介護職の横のつながりを作る催し。コロナ禍で中断していますが代表や管理者は再開を心待ちにしています。</p>	

6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>内部研修で長い時間はとっていませんが、全体会議の後に少し研修を行っています。</p>	<p>身体拘束をしないケアについて重要事項説明書にも明記し、3カ月に1度開く「ヒヤリハット会議」や、全体会議の後に話し合っています。</p> <p>新規入所や家族の要望により、夜間帯のみ居室でセンサーを使用しているケースが2例あります。使用については家族に説明し同意を得ています。</p> <p>ユニットは建物の2階と3階にあり、利用者はエレベーターで移動しています。1階デイサービスの玄関は内側のみ常時解錠、エレベーターにも鍵やロック機能はなく、利用者は好きに移動できる環境です。帰宅願望や徘徊傾向のある利用者には、制止せず職員が付いて外に出ています。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>外部の研修には参加できなかったのですが、職員でグループワークを行い、意識をもって取り組んでいます。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>全職員に制度を理解してもらえるよう話し合いをしています。</p>		

9		<p>○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約書・重要事項説明書を見ていただき説明しています。理解を得られるまで細部に渡り説明し、幅広い情報の提供を心がけています。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>家族さんともなかなか会う機会がなく、面会も予約が続いています。面会時に職員も付き添い、日常の様子を伝えたり、日々どう過ごしているか、なかなか会えない分、不安も多いと思うので、できるだけ伝えるようにしています。 面会以外にも、電話で日々の様子を伝えています。</p>	<p>家族の意見を聞く場として家族会や、運営推進会議がありますが、コロナ禍で中止しています。面会制限が続く中、管理者や計画作成担当者や職員は届け物等の訪問の際や、電話をかけ、身体状況や生活全般の不安や質問と合わせて要望や意見を聞いています。 また、利用者の日々の暮らしや行事の写真を入れた「メイタイムス」を郵送するほか、希望者には動画で利用者の様子を知らせています。家族からは「写真や動画で近況を教えてもらえるのでうれしい」と好評です。</p>	
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>主に職員会議・各フロア会義で意見を聞くようにしています。又、管理者は個別に職員と話し合いも行っています。</p>	<p>求める人材として「楽しいこと、遊ぶことが好きな人」を掲げるホーム。代表や管理者は職員を信頼して業務を任せ、職員はやってみたい、やりたいことをどんどん提案しています。コロナ禍の中でも、ホームの中でユニークなイベントやアクティビティが行われましたが、大半が職員の提案でした。また、節電対策も職員の提案で始まりました。 「ホームの魅力は何でもやらせてもらえること」と言い切る職員もいます。</p>	

12	<p>○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>今後、職員個々の努力や実績等を把握、査定することが出来るよう基準作りをしました。各自が向上心を持って働けるような職場環境の整備に努めていきたいです。 今年もアンケートをもとに個別に話し合いました。</p>		
13	<p>○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>できるだけ集まることをさけ、内部研修を全体会議のあとに短時間で行いました。今年インドネシアの子が1人入職しました。まだまだ日本語も介護についても勉強中の為、日本語や日本の文化を教えながら、難しい言葉を使わずどうすれば相手に伝わるかを日々考えています。海外の人だけでなく「伝える」ことの難しさを感じました。伝えた方と受け取った方で感じ方、受け取り方が変わることをどう統一するか。どうしたらニュアンスが変わらずに伝えられるか。日々考えています。</p>		
14	<p>○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>交流はすべてLINEで行われています。コロナ感染のことが多いです。あとは行事をどうしているか、人手不足をどうしているか等を話し合っています。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面接時より担当になるCWが細かく、本人の希望・夢・生活歴を聞き取り、入所から1ヶ月を目途に、本人・家族・職員と担当者会議を行い、ご家族と共に本人の安心を確保するように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の思い・考え方・希望・問題点等を聞き取り、日々の生活を共に考えるようにして、信頼関係を築く努力をしています。何でも言い合える関係作りを目指しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入念な聞き取りをします。常に必要なことは何か、最優先することは何かを、広い視点で考えるよう努めています。その上で、日々の変化等をスタッフ全員で共有し、一日も早く落ち着いた生活ができるよう見守っています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自慢できること・得意なことは、皆に教えてもらい、苦手なことは、皆でサポートする関係を大切にします。洗濯物を畳み名前別に分ける、お茶を入れる、お箸を配る、ランチョマットをひく、掃除機をかけるなど家事分担を行います。フロアによっては取り合いになったりします。皆さん働く意欲がすごいです。		

19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>今年も一緒に行事を楽しむことができなかったのも、メイズタイムス等で行事の写真を送っています。身体状態、生活全般の不安・質問等については、電話やメール、面会時に聞き取りを頻回に行うようにしています。信頼関係を築いていく努力をしています。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>今年も会うことがなかなかできなかったのも、利用者さんに手紙を書いてもらい家族さんに送ったりしています。</p>	<p>面会制限が続く中、家族とは電話やコミュニケーションアプリ(LINE)を利用した動画送付やビデオ通話などで取り次いでいます。知人や親族から贈り物等が届くとホームが用意した「レターセット」を使って、自筆でお礼状を書く支援を行っています。勤続10年以上のベテラン職員も多く、その存在が利用者の安心や心の支えになっています。</p>	
21		<p>○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。</p>	<p>いつも利用者同士の仲に入って口を出さないようにして、個々の関係を大切に見守っています。又、コミュニケーションが行き違わないよう援助することを心がけています。</p>		
22		<p>○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。</p>	<p>今年は会う機会がありませんでしたが、メールや電話、ホームページやInstagramを見てくださったり、クリスマスカード・みかんを送ってくださったりと変わらない関係が続いています。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントシートにある項目を、担当職員がゆっくり聞き取る所から、一人一人の夢や、これからの生活に対する希望を探し、夢叶うよう支援しています。	利用者の思いや意向は入所時のアセスメントで聞き取るほか、職員は利用者と時間をかけて信頼関係を築きながら、思いや意向を引出しています。「利用者さんとの会話で誰も知らない情報を引出すのが得意」と胸を張る職員や、「私の最期は好きなコスモスの花で棺をいっぱいにして」と心を許した職員に打ち明ける利用者がいます。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントシートにある項目を担当職員がゆっくり聞き取り、見えてきた生活歴・性格などから、家族と共に考える時間を持つようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	全員、日々の過ごし方はさまざまなので、一人一人に対応できるよう心がけています。又、日々訴えもさまざまなので個別に聞き入れる余裕を持ち対応しています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本筋は「本人の夢を叶えること」。家族の要望も含め、今一番大切なこと、今一番必要なこと、楽しく暮らすための課題を常に探しています。	介護計画は日々モニタリングし、医療情報提供書やアンケートを参照しながら各種会議やケース検討会議を経て原則3カ月に1回見直し、家族等に報告しています。見直した計画書は個人のケースファイルとは別にファイリングして回覧し、職員全員が確認しやすく工夫しています。 計画作成担当者は「押しつけがましくないよ	

				うに。家族の声を反映してその人らしさを大切にした計画を」と話します。編み物が好きという利用者に、娘に贈るマフラーを編むという短期目標を盛り込んだところ夢中になり、結果的に職員全員分のマフラーを編み上げた事例があります。2023年度からは新たにケアマネジャーを取得した職員が計画作成に加わり、新鮮な視点での介護計画ができるかと期待しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録はもちろん、連絡欄を活用しています。又、問題がある場合は、早急に集合するときもあります。なるべくオンラインで話し合うようにしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	今年も我慢の一年でした。「行けないならここでしょう！」と施設内ですることに慣れた所もあますがクラスター発生時などやりたくてもできない事が多かったと思います。そんな中でも「散歩ついで」や「インターネットで」とできない、行けない中でできることを探す1年だったと思います。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	散歩に行き、公園で遊んでいる子供たちに「めいのおばあちゃんバイバイ」と声をかけられたり、今年是一緒に行事ができず会う機会も少ない中で、顔を覚えてくれる近所の子供や、そのお母さんたちとあいさつを交わしたりし、その少しの時間を大切にしています。		

30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>各階月に2回、往診ドクターの診察があります。歯科・鍼灸の訪問もあります。又、精神科・皮膚科・眼科等は地域のかかりつけ医を作っています。家族と職員が同行し、安心して受診できるよう配慮しています。より適切な医療を受けられるよう支援しています。</p>	<p>毎月2回協力医の往診を受けの結果はその都度家族に報告しています。訪問看護師による健康管理も実施し、夜間でも相談できる体制ができています。毎週火曜日には、歯科医・歯科衛生士の訪問があり、口腔ケアの指導にあたります。鍼灸・マッサージの訪問もあります。</p>	
31		<p>○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	<p>医師と訪問看護師との連携と、「いつもと違う」という介護士の状態変化の気づきを大切に、少しでも早く適切な診察が受けられるように、一丸となって努力しています。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>医療連携医の最終判断により、入院を決定することが多いですが、入院後は家族と職員が常に連絡を取り合い、入院先の主治医の意見・経過等も一緒に聞き、一日も早い帰所に向けて、積極的に支援しています。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>終末期に関しては、Dr. より指示のあった段階で家族と話し合いを重ね、Dr. ・Ns. ・CW・家族(本人)同席の元、方針を決定しています。そして、職員全員でそれぞれの看取り方を考え進めます。又、延命するかどうか、看取りについての希望確認書を入所時に家族に実施しています。希望確認書の意向の変更は随時</p>	<p>終末期に関しては、看取りについての指針と希望確認書を備え、入居時に家族に説明し意向を確認しています。その後の意向の変更も医師・看護師・本人・家族・職員同席のもと話し合い、希望に添うようにしています。ホームで看取りとなった時には、家族の付き添いにも対応しています。 看取りについて管理者は、「いつもと同じ日常</p>	

			可能で、話し合いの際にも意向の確認をし、ケアに反映しています。	の中で起きること」と話し、職員はこの考えを共有しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	コロナウイルス感染症についての話し合いが一番多く、発熱の場合、体調不良の場合、まず何をするか、誰に連絡するか等初期対応についてや、クラスターで経験した時にどう対応していたかも定期的に話して忘れないようにしています。必要な物は在庫確保しつつ何があっても対応できる様にしています。 職員が発熱した時の対応も同様に話し合い続けています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	今年は、5月・10月に消防訓練を実施しました。消化・避難・通報の訓練に加え、地震発生時にはどんな事が起き、どう対応するかも訓練しています。	火災や地震の災害対策のマニュアルを作成しています。消防署立ち合いのもと、年2回の避難訓練を実施しています。災害時の行動指針も作成しています。各階ユニットの事務所に準備した非常食・備品の中には、利用者の内服薬の明細書も入れています。 また、1階デイサービスのエレベーター前に設置した「ミニコンビニ」では、消費期限の長い飲み物やお菓子、ラーメン類が100円で購入でき、これも災害時の備蓄として活用できます。備蓄の水は自治会から預かった地域住民のペットボトルと合わせて、職員寮として借りている隣のマンション一室に一括保管しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の思いを実現すべく、情報収集し、常に何を願い、求めているかを知るための努力をしています。常に敬語ではありませんが、その人の一番落ち着く丁寧な言葉で話します。	利用者の日々の情報を記録し、全職員が目を通してサインをしています。利用者の呼び方については、家族とも相談し、本人の一番気が楽になる呼び方で呼んでいます。普段の会話では敬語を使いすぎることなく、本人にとって一番馴染みのある言葉で話すようにしています。会話の中から、やりたいこと・好きなものなどを引き出すようにして個々人の尊厳や尊重に努めています。個人情報保護やプライバシー確保の研修も実施しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	忘れてしまうことが多くなってくると、なかなか以前していたことや、したいことが言葉になって表れません。雑談などしながら、思っていることを引き出すことも大切です。今までの生活の中で、習慣としていたことも大切にしています。また、今興味を持ったことも探りながら聴き取ります。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝食は、起きて来られた方からで、特に時間は決めていません。昼食は12時に席につきますが、それも決まりはありません。夕食も、お腹がすいたら…という感じです。 入浴は入りたい時間に、日にちも特には決めていません。ベースになる個々の生活を把握し、それぞれの日常と関わりをゆっくりと過ごしてもらっています。		

			めいの家には定められた必要なマニュアル以外にマニュアルはなく、業務表や職員の一日の流れもありません。日常を決めるのは常に利用者です。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2か月に一回の訪問美容をお願いしていますが、コロナの感染者が増えた時は、中止・延期をしています。洋服等はインターネットで購入したり、家族さんが持って来られています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	今までできていた一緒に盛り付けたり、お米を研いでもらったりができなくなりましたが、洗い物をしてもらったり、メニューを作る時に「何が食べたい？」や、誕生日のメニューをその人の好きな物にしたり、一緒に考えています。	昼食と夕食は主に地域の青果店から届く新鮮な食材を使って、専従の職員が1階の厨房で手作りしています。メニューは職員が月替わりで利用者の食べたい物など好みを聞き、献立作りにつなげています。朝食は各ユニットで一人ひとりの起床時間に、パンやお粥等、希望に合わせて準備します。その他、希望があればビールを楽しむこともあり、手作りの寿司の日も設けています。 誕生日には本人の食べたい物を聞いて楽しむようにしています。 今後、コロナ禍以前のように家族や職員との外食も楽しめるように計画しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取表は日々つけています。食意が低下した人、体調の悪い人は、食事量も記録しています。水分は、好みや水分制限があるので、その人それぞれに応じた飲み物を提供しています。飲み物を入れるときは何がよいか聞き、食べたいものがある時はなるべくその日のうちに一緒に用意しています。		

42		<p>○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>毎週火曜日、訪問歯科医・歯科衛生士に治療・口腔内を清潔にしてもらいます。歯医者でできることは、すべて訪問で可能となったので、実際に治療もしてもらっています。歯科衛生士にアドバイスをもらい、日々の口腔ケアを行っています。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている</p>	<p>テープ止めのおむつ常時着用の方は一人もいません。全員下着はパンツ着用、尿漏れのある方はパンツの中にパット使用、尿意のない方・定かではない方は適時トイレへの誘導を行っています。一人一人に合った物を探し、気持ちよく日々を暮らすため、排泄の工夫は一丸となっています。</p>	<p>「快適さと尊厳」の視点から可能な限り布パンツとパットを使用し、排泄チェックリストに基づいて声掛けや排泄支援を行っています。排便コントロールに関しても、バナナや牛乳、きな粉などで自然排便を心掛けています。入院時は紙パンツ・テープ止めを使用していた利用者が1週間ぐらいで、布パンツとパット使用に戻った事例があります。トイレ支援では尊厳・尊重を基に同性介助にも配慮しています。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>まず、食物繊維の多い食事、足りないところは、ごまきなこ・牛乳・バナナ・芋類・オリゴ糖・ヨーグルト等を楽しんで食べてもらうようにしています。お茶は、ごぼう茶・もろこし茶などで便通を促しています。適度な運動(散歩)の促し、十分な水分摂取を意識して行っています。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている</p>	<p>入浴日は決まっていません。週に2~3回は入浴しています。意思決定できない方は促しますが、決定できる方においては入りたい時対応です。</p>	<p>入浴を楽しみ、より寛いでもらえるように、2階は富士山の絵を、3階は魚のシールで水族館のように設えています。 入浴日は決めず、週2~3回入っています。意思決定できない方は促しますが、決定できる方においては入りたい時に対応します。同性介助にも配慮し、入浴を好まない場合は、「お風呂上りにビールを飲みましょう」「ソフトクリームを食べましょう」など気分を盛り立てる工夫もし</p>	

				ています。利用者持ち込みの好みのシャンプーやボディシャンプー・固形石鹸等もあり、入浴においても個別ケアに取り組んでいます。	
46		<p>○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している</p>	<p>意思決定できない方においては、適 宜休息時間をもうけています。夜 は2時間を上限とし、その方の体 調や状況に合わせた頻度で巡回 し、眠れない夜が続けば、ホット ミルクなど一緒に飲んだり、テレ ビを観て過ごしたり、話をしたり して過ごします。飲酒される方も いらっしゃいます。意思決定でき る方は促して、後は本人の生活 習慣に合わせています。</p>		
47		<p>○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目 的や副作用、用法や用量について 理解しており、服薬の支援と症状 の変化の確認に努めている</p>	<p>誤薬がどんなに怖いことかをホ ームDr.から話してもらい、利用 者の薬に興味を持てるようピル ブックも各階に置き、処方箋も 必ずしっかり眼を通し、薬に変 更があった時には個別記録に記 載し、周知徹底しています。服 薬マニュアルを全職員参加で作 成し、誤薬防止に努めています。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている</p>	<p>得意なことをしてもらい、みな さん役割があります。洗濯物を たたんだり、エプロンのボタン つけや掃除したりしています。リ ビングでお笑いのDVDをみんな で見たり、体操のDVDを見なが ら体を動かしたり、季節に合っ たデザート作りや、夏にはかき 氷・ソフトクリームメーカーで、 自分の好きな味を選び、自分 でソフトクリームを作ったりし ています。その日によって違 いますが、皆で何をするか話 し、楽しみながら行っています。</p>		

49	18	<p>○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>今年も全く外出できませんでした。お散歩や小さな行事を行いました。</p>	<p>コロナ禍の中での散歩は、近くの公園やコンビニに買い物など最小限に、密を避けて実施していました。 外出できなくても、おやつを一緒に作ったり、歌を唄ったり、オリジナル体操で踊ったりすることで「笑って過ごす」暮らしに繋げています。 神社への初詣の代わりに、玄関前の駐車場に鳥居と賽銭箱を手作りして、お参りもしてもらいました。 「遊園地に行ったことがない」などの利用者もあり、今後は遊園地(ユニバーサル・スタジオ・ジャパン)や水族館(海遊館)への外出やホテル外食等も計画しています。職員は一日も早くコロナ禍前のように、外出の機会を多く持てることを願っています。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>事務所で管理し、出かける時に担当職員に渡しています。本人のその日の体調等で本人に渡すかどうか決定します。使った分は領収書で月一度家族に報告しています。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本院自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>ケアマネージャーがお手紙と一緒にケアプランを送らせて頂いています。職員が家族あてに電話をかけた時には本人にもかわっています。家族から贈り物が届いたとき、記念日、体調不良時、体調が良くなった時、買い物をする時、家族に会いたい、話したいと訴えがあった時などです。</p>		

52	19	<p>○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>利用者それぞれが使いやすいように配慮する努力をしています。たとえば、椅子を利用者の座りやすいものに変えたり、クッションを工夫したり、入浴時の椅子も個々に使いやすいものにしてあります。利用者と相談しながら窓の開閉をし、TVやCD・DVDをつけるようにしています。</p>	<p>1階がデイサービスと厨房、2階と3階がユニットの居間兼台所と各居室になっています。1階エレベーター前にはお菓子やカップ麺、ドリンク類を揃えた「ミニコンビニ」を設けています。日中、2つのユニットを行き来して愛嬌を振りまくアイドル犬「コテツ」の存在が、利用者に元気を届け、笑顔の原動力となっています。パステルトーンの個性的なクロスを貼ったりリビング、廊下は明るい空間となっています。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>リビングで一人になることがあるとすれば、皆がご自分の部屋に帰ってしまった時だけです。CWと2人で話したい、利用者同士内緒で話したい、一人になりたい時は、フロアの事務所か、それぞれのお部屋を使っています。</p>	/	/
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>今まで自宅で使っておられたタンス・ベッドを持って来られています。それぞれの方のこれまでの生活を考えながら対応しています。歌謡曲が好きな方は、部屋に流し、落ち着ける雰囲気作りをしています。きれいに片づいているだけが良い訳じゃないようで、いろいろな所に支えがある、物のいっぱいある部屋が落ち着く方もいます。それぞれの方のこれまでの生活を軸と一緒に考えています。</p>	<p>新しく入居した利用者は、生活に馴染んだ頃に行う居室の壁紙のリフォームで、好みの色柄を選ぶことができます。壁はスヌーピー、押入れは雲柄の空と、個性的な部屋もあります。これにより自室を認識でき間違いが少なくなっています。リフォームの際に出た端材を利用して、利用者が自筆した表札を掛けています。ホームで設置しているものはエアコン・電動ベッドです。自宅で使用していた家具や、DVDや位牌を持参したり、写真等を飾ったりしている利用者もいます。</p>	

55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>部屋の出入口は少しスロープになっているし、浴室は段の大きな階段になっていたりするので、原則バリアフリーではありません。その度声をかけながら生活しています。また、スイッチカバーを変更し、より安全に生活できるよう工夫しています。特に個別の道具の工夫はありませんが、「職員がそばにいること」「職員が声をかけること」が安全に繋がればと思います。</p>		
----	--	---	---	--	--